

# 地域背負う人材育成を

## 秋田職能大 県北3高校と連携協定



協定書を取り交わした各校の代表（左から中村校長、藤原校長、伊藤校長、佐藤校長）

的な発展には地域に根差した体系的な人材育成が必要と考え、昨年から各校に連携協定の締結を働きかけてきた。

協定では大学校指導員による出前授業や講義、高校の探究授業や課題研究への大学校の協力など、教育交流の実施を掲げる。有効期間は来年3月31日まで。改定の申し入れなどがない場合は、さらに1年間自動更新する。

締結式は同短大で開かれた。各高校を代表して鹿角の佐藤校長があいさつ。「この協定が高校生と大学、地域産業との連携をさらに深め、秋田のもののづくりに新たな活力を生み出すとともに、各校が一層発展していくことを強く願っている」と述べた。協定の趣旨説明が行われた後、各校代表が協定書に署名した。

9月11日に第1回となる連携推進会議を行う予定。各校の要望を整理し、年間事業計画などに反映する。

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）は28日、鹿角市の鹿角高校（佐藤寛校長）など工業科を

有する県北3高校と連携協定を締結した。協力して人材育

成に取り組み、地域の活性化につなげる狙いがある。同短

大の中村校長は「協定を通じて、多くの子どもたちにものづくりの楽しさや面白さを

知ってほしい。いずれは地域を背負って立つてもらいた

い」と期待を込めた。連携協定を結んだのは鹿角

高（伊藤康夫校長）、能代市の能代科学技術高（藤原孝一校

長）。協定の背景にあるのは県北で進む若者の流出。同短大生

の県北出身者は年々減少し、高校でも統廃合が進んでいる。同短大では、地域の継続